

## 国際商品市況（5/18～6/12）

原油・銅・鉄鋼原料・穀物

原油：足元調整も、低位な在庫水準が下支え

2026年 6月 16日

原油（足元調整も、低位な在庫水準が下支え）	2
主任研究員 伊勢 友理	
銅（高値圏で上下）	2
上席主任研究員 李 雪連	
鉄鋼原料（供給要因で鉄鉱石・原料炭はまちまち）	3
上席主任研究員 栞名 奈美	
穀物（米国産地の好天継続で売り優勢）	3
主任研究員 浦野 愛理	

## 原油

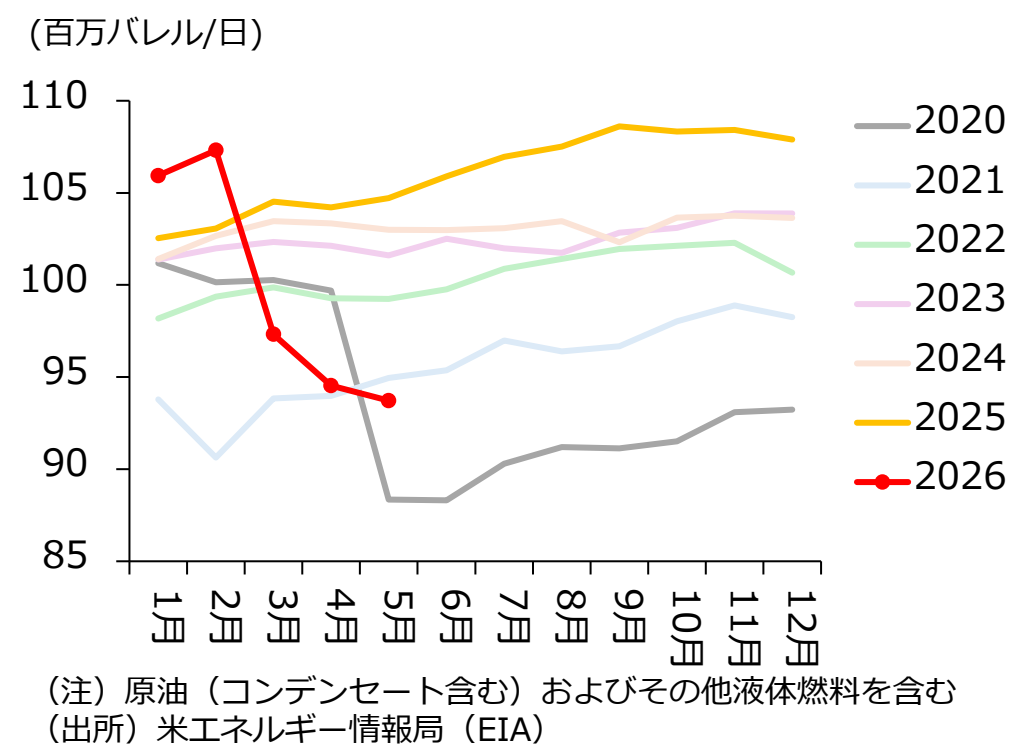
主任研究員 伊勢 友理

**足元の動向：** WTIは、米国とイランの交渉進展への期待から5月末に1バレル80ドル台後半まで軟化。その後、米国とイランが戦闘終結で合意し19日に署名するとの発表を受けて80ドル付近に下落した。ホルムズ海峡の通航量が回復しない中、5月の世界石油生産は日量約94百万バレル（紛争前1～2月平均比▲13百万バレル）と落ち込みが続いた。同月の石油消費は日量約100百万バレル（同▲4百万バレル）と、価格高騰や原油処理量の落ち込みなどを背景に中国、日本などアジア諸国を中心に紛争前から減少。ただし生産減に比べると消費減は限定的で、在庫の取り崩しによる補填が続く。

**先行き：** 米国では戦略石油備蓄が歴史的な低水準になり、クッシングの商業在庫が運営上の下限水準に近付いているとの指摘も。在庫減は中東産の輸入国が不足分を補うため米国産を輸入していることが一因。米イラン合意が正式に署名されても、ホルムズ海峡の通航再開は段階的となることが見込まれる。今後、米国内では夏のドライブシーズンを迎え需要の増加が見込まれる中、低水準の在庫を背景に価格には上昇圧力がかかりやすい。輸出余力が失われればアジア等にも影響。

▽WTI（期近物）

▽世界の石油生産量



## 銅

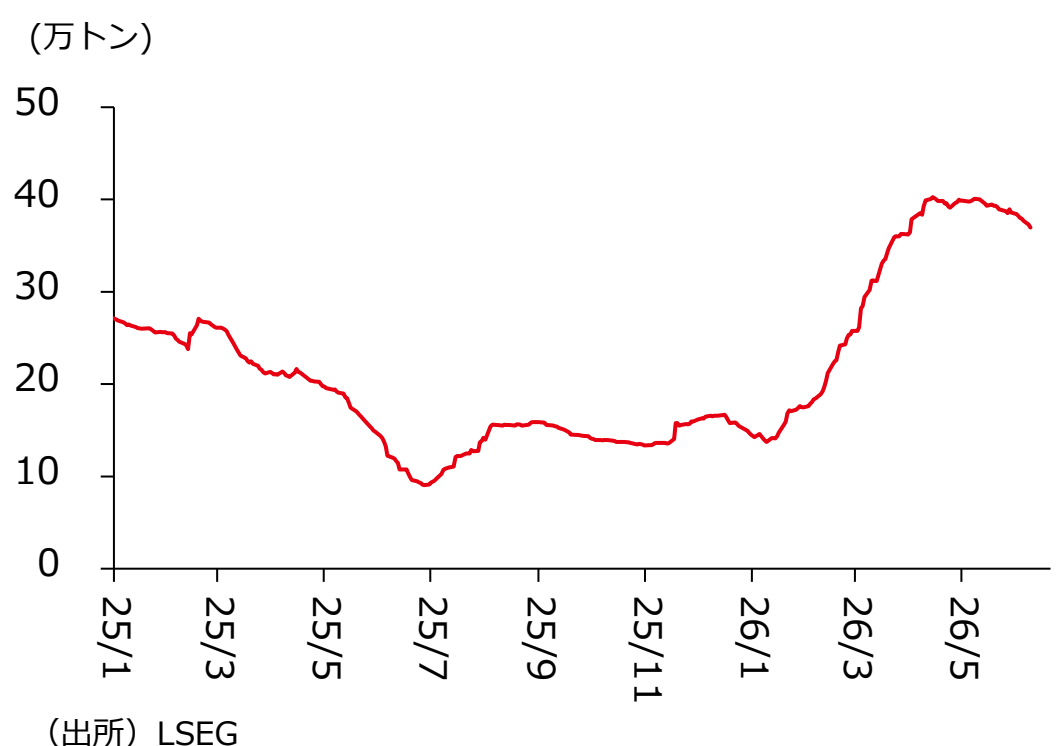
上席主任研究員 李 雪連

**足元の動向：** 銅価格（LME）は、6月初めにかけて上昇し、一時14,000ドルを上回った。鉱石で最大、銅で3位の生産国チリでの地震に加え、ホルムズ海峡での物流停滞に伴う硫黄（製錬用硫酸の原料）や原油（製錬・輸送燃料）の供給不足・コスト上昇など生産面の障害が上昇要因。さらに、トランプ米大統領が6月1日、通商拡大法232条に基づく鉄鋼・アルミ・銅への追加関税を一部緩和したことも需要の下支え期待につながった。足元では米利上げ観測の強まりによるドル高（ドル建て商品の割高化）や、需要減退を懸念し価格が軟化する局面もあったが、在庫減少が一定の下支えに。

**先行き：** 当面、外部環境に揺れつつも、需給のタイト感を背景に高値圏で推移する見込み。データセンターや再生可能エネルギー関連の需要が底堅い一方、鉱石不足に加え、エネルギー高や副資材不足が供給を圧迫。なお、輸入銅に対する関税措置（27年15%→28年30%）を見据えた米商務省の調査は、大統領への報告期限が6月末に迫っており、価格は振れやすい状況にある。

▽銅（LME、3カ月物）

▽取引所在庫（LME）



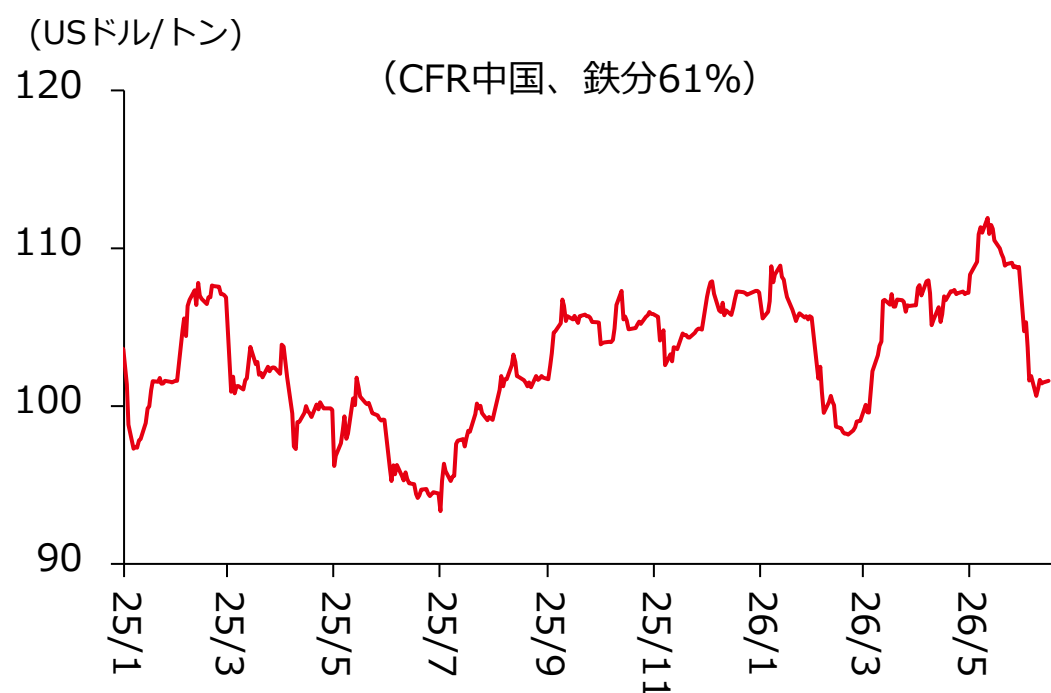
## 鉄鋼原料

上席主任研究員 栗名 奈美

**鉄鉱石**：価格は100ドル付近まで下落した。中国の鉄鉱石輸入は4月以降やや軟化し、5月は前年割れに転じた。5月後半以降、豪州・ブラジルからの出荷はやや減少したものの、ギニアのシマンドウ鉱山からの出荷が増加、需給の緩みが価格の軟化を招いた形。採掘・輸送などのコストは価格を一定下支えするが、住宅不況や鋼材輸出抑制を背景に中国の鉄鉱石需要は弱く、今後も需給の緩みが重しとなろう。シマンドウ鉱山からの供給増に伴う中国の調達構造の変化にも注視。

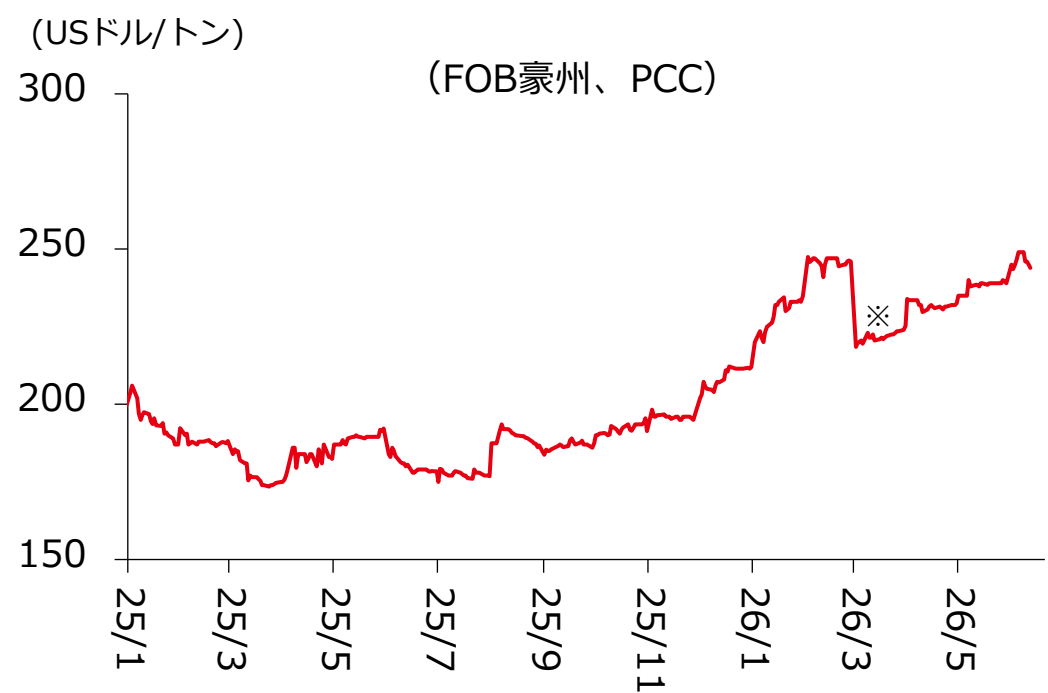
**原料炭**：価格は240ドル台後半まで上昇した。中国・山西省での大規模炭鉱事故を受けた安全検査強化により、広範な操業停止・減産が発生。国産の原料炭減少が輸入拡大につながり価格を押し上げた。豪州炭最大の需要国インドの5月の粗鋼生産量は前年比+2.9%と見込まれ、昨年と同+10%前後といった勢いはない。インド向け需要は数量面でなお一定の支えとなるが、モンスーン期入りを控えて増勢は力強さを欠く見通し。一方、採掘・輸送コストの高止まりが価格を下支えしよう。

▽鉄鉱石 (SGX、期近物)



(注) SGX : Singapore Exchange  
(出所) LSEG

▽原料炭 (SGX、期近物)



(注) SGX : Singapore Exchange  
(出所) LSEG ※限月切替の影響を含む。

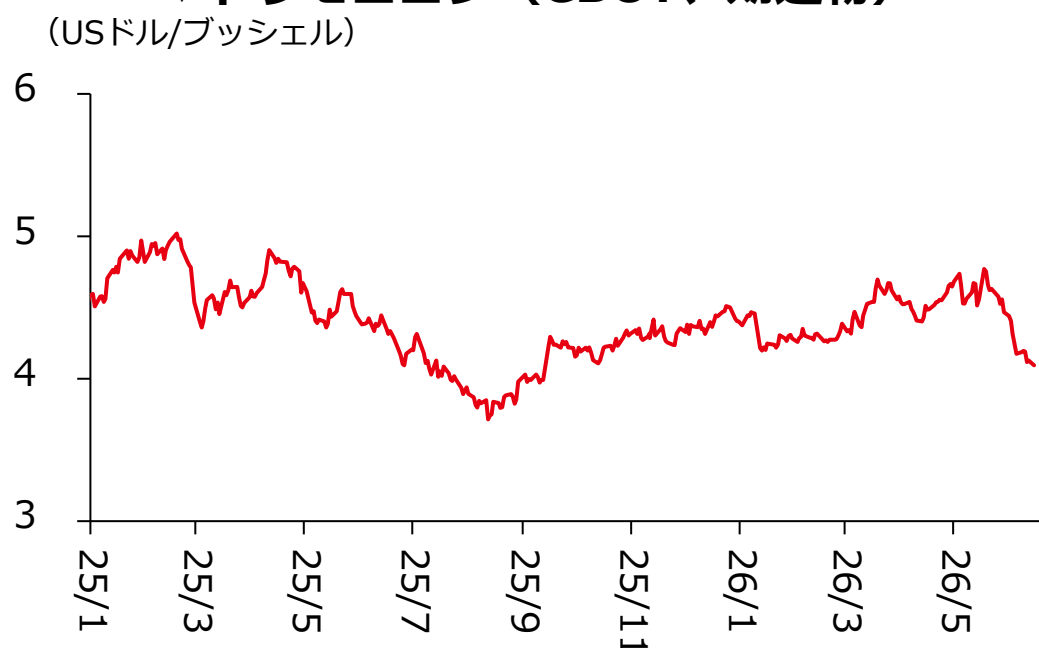
## 穀物

主任研究員 浦野 愛理

**トウモロコシ**：トウモロコシ価格 (CBOT) は、4.2ドル付近まで大幅下落。良好な天候に伴う米国産の順調な作付進捗や南米産の収穫進捗が主な下落要因となった。米農務省の6月月報では、2026/27年度の米国産の生産見通しと需要見通しが前月から据え置かれた。今シーズン分の作付はほぼ完了。肥料高は追肥量を圧迫するも、影響は限定的。今後は主要産地の天候と作柄状況に左右される展開となろう。今年はエルニーニョ現象に伴う降雨量次第で生産への影響が変動する見通し。

**大豆**：大豆価格 (CBOT) は11ドル台前半まで大幅下落。米国が強制労働産品の使用を名目に複数国に対し通商法301条に基づく関税案を発表、対象となった中国が反発。米国産の追加購入が滞る懸念が押し下げ要因となった。今後も新たな関税案 (過剰生産) が発表される可能性がある。なお、米農務省の6月月報では、2026/27年度の米国産の期末在庫見通しを含む全項目が据え置かれた。当面は主要産地の天候と作柄状況、原油高を追い風としたバイオ燃料需要の拡大に注目。

▽トウモロコシ (CBOT、期近物)



(注) 1ブッシェル=25.4012kg  
(出所) LSEG CBOT : シカゴ商品取引所

▽大豆 (CBOT、期近物)



(注) 1ブッシェル=27.2155kg  
(出所) LSEG

(執筆者プロフィール)

**伊勢 友理 (Yuri Ise)**

ISE-Y@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、日本、原油・ガス

日系金融機関を経て、2021年から丸紅経済研究所。2024年から25年に日本経済研究センターに出向（マクロ経済モデル、時系列データ・パネルデータ分析）。現在は主に日本の政治・経済、原油・ガスを担当。東京大学経済学部卒業。

**李 雪連 (Xuelian Li)**

xuelian-li@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：中国・東アジア、商品・エネルギー、産業

IT企業勤務を経て2005年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて主に中国・東アジア、商品・エネルギー、産業を担当。講演や取材、寄稿なども行う。2013年から15年まで米国・戦略国際問題研究所（CSIS）に出向し米中関係を研究。早稲田大学アジア太平洋研究科修了（国際関係学修士）。（社）日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト、中国経済経営学会会員。

**栞名 奈美 (Nami Kuwana)**

KUWANA-N@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：金属、化学、エネルギー、LCA、サプライチェーン分析、市況分析、産業政策分析

日系金融機関を経て、2017年から鉄鋼系シンクタンクにて鉄鋼業を中心に環境・エネルギー政策や技術動向調査・需給分析を担当。2023年から丸紅経済研究所。主に金属・化学・エネルギー産業のサプライチェーン分析や環境・エネルギー政策分析などを担当。LCA学会削減貢献量研究会委員、削減実績量研究会委員。東京大学法学部卒業。

**浦野 愛理 (Airi Urano)**

URANO-A@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、米国、中南米、日本、穀物

2016年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて国内マクロ経済・金融政策などの経済調査、原油・銅市況や環境・エネルギー政策などの産業調査に従事。現在は米国や中南米などの政治経済、穀物市況を担当。2020年から22年に内閣府（経済財政分析担当）へ出向。一橋大学商学部商学科卒業。

---

## 株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。